

EBLM 委員会議事録

日時：平成21年4月4日（土）午後7時～9時

場所：山口大学医学部保健学科第2研究棟 市原研究室

出席者（敬称略）

市原清志（山口大）、石田 博（山口大）、片岡浩巳（高知大）、山西八郎（大阪大）、
稲田政則（虎ノ門病院）、吉野 誠（A&T）

議事内容：

1) 8月29日（土）EBLM 教育セミナー（札幌）

平成20年度のセミナーの1)～3)のテーマ（研究デザインから多重ロジスティック分析まで）に絞って、5時間で実施することで、松野総会長より了承が得られた。

2) 応用データ解析セミナーの開催について

平成21年4月4日（土）に山口大学医学部にて、「新しいデータ解析技術の臨床検査医学への応用」のテーマで実施した（別紙）。開催の公示をしなかったが、約20名が参加した。

平成21年度の総会では、空きがなく実施できなかった

平成22年度の総会で取り上げるべく、その候補となるテーマ（下記の中より）について検討した。

3) EBLM の実践に役立つデータ解析技術とその応用範囲について議論した

(1) 基本データ解析

- ・方法間比較
- ・分散分析（要因分析）
- ・診断的有用性評価（ROC 解析）

(2) データベース制御技術

- ・SQL の活用法
- ・OLAP（ピボットの多次元版）

(3) 多変量要因分析

- ・重回帰・・・変動要因分析
- ・ロジスティック回帰・・・診断的有用性
- ・Cox 回帰
- ・メタ解析
- ・GM（グラフィカルモデリング）
- ・SEM（構造方程式モデリング）：共分散構造分析・・・因果解析

(4) 分類技術

- ・階層型クラスター分析
- ・非階層型クラスター分析
- ・SOM、自己組織化病態系統樹
- ・K-mean
- ・教師有り分類技術

- ・ CART

- ・ C4.5 診断ロジックジェネレータ

(4) データマイニング技術

- ・ 潜在基準値法（基準範囲、生理的変動情報プロフィール）
- ・ フィルター技術
- ・ repository を活用した判断
- ・ association 解析

(5) 画像処理技術

- ・ 画像診断
- ・ 圧縮技術
- ・ ノイズ除去

(6) 精度管理技術（変化を検出するための新しいより鋭敏な方法論の探索）

- ・ バイアス管理（出現実績ゾーン、潜在基準値法、. . . .）
- ・ 新デルタチェック法
- ・ フィルター（平滑化）技術の応用
- ・ 診療情報をリンクした検査結果の判断

(7) 業務支援・診療支援

- ・ テキストマイニング（苦情、インシデント、臨床事例からの判断）
- ・ ナレッジマネジメント
- ・ 効率化のための業務モニター
- ・ 特殊集計
 - ・ 診断情報の提供
 - ・ 感染症モニター（微生物疫学）

4) アジア地域共有基準範囲設定プロジェクトについて

IFCC・APFCB の支援を得て、本学会の学術推進プロジェクトとして、東・東南アジアの約 3500 名の健常者（国内 2100 , 国外 1400) を対象に、90 項目余りの主要な臨床検査値の基準範囲を設定するプロジェクトが進行中である。個人の身体特性・生活習慣特性の情報も詳細に調査されていることから、そのデータは、検査情報学的に重要となる多様なエビダンスが得られると期待される。そこで、ある段階で、その疫学情報を Web 上で利用できるシステムを、EBLM 委員会の仕事として開発する構想（市原案）が示された。